

Japa Newsletter (毎月1日発行)

～社会課題 X イノベーション X 地方創生～



INDEX

1. コラム「論点提起」：メディアリテラシーや如何
2. 寄稿：首楞嚴心経（シューランガマ心経） 柴田芳明（公財）横浜工業会 副理事長
3. 解説：実証と導入
4. 関連情報：「時代環境」「COVID-19」「地方創生・日本創生」「社会的孤立・孤独」
5. 読者の声
6. 連携団体及び Japa からのご案内
7. つぶやき（編集後記に代えて）

注：担当執筆者名の記載のない項目は、編集発行人(芝原 靖典)による。

※ 本 Newsletter は Japa 日本専門家活動協会が毎月 1 日発行の会員及び関係者向けの newsletter です。
3ヶ月後に当協会のHP <https://japa-fellowlink.wixsite.com/japa/newsletter> に公開しています。

第21回 Japa フォーラム & 交流忘年会 開催案内 <参加者 募集中！>

- 開催日時：2024年12月12日(木) 17:25 ~ 21:00 ※17:15より、受付開始
- 開催場所：NEC 三田ハウス芝倶楽部 3階 301号室 (住所:東京都港区芝五丁目21-7)
- 論点提起：1. 日本の宝を残す古民家格付け・保存活用プログラム by 古民家保存協会&Japa
2. 市民と共創するまち・まるごとリビングラボプログラム
by 大磯コンソ・JST/RISTEX Project チーム&Japa
3. 地域に根ざした自律・持続型まちづくりプログラム by 青山Hicon&Japa
- 参加費：会員4,000円、非会員5,000円 ※交流忘年会費用を含む <事前振込>
- 詳細・参加申込：<https://japa-fellowlink.wixsite.com/japa/japa-forum21> <事前登録>

1. コラム「論点提起」：メディアリテラシーや如何

「アメリカ国内の分断と対立」（特に、政治システム）が深刻化しているとの報道が続いている。その伝え方/伝えられ方にも分断と対立が見られる。その背景として、経済的格差・社会的階層の固定化（中間層の崩壊・二極化）が指摘されている。加えて、アメリカのプレゼンス（覇権国家）の縮退による余裕のない国家・社会に移行する歴史的な流れの中、移民問題、人種問題、宗教問題が深刻な社会課題として多様な形で励起している。「衰退・混乱・分断するアメリカ」は世界的規模での混乱、対立そして分断を誘発し、アメリカそのものが世界のリスク要因と化している。

翻って、日本はどうか。戦後の復興・高度成長期を経て、1990年以降のバブル景気が崩壊する中、デジタル化社会への対応が遅れ、「Japan as Number One」時代は終焉した。東京一極集中構造＝東京と地方の格差の固定化、代議士の世襲化に代表される社会階層の固定化、非正規雇用で代表される経済・所得格差・雇用不安定さの固定化（少子化の原因、中間層の消失）等々、格差が発生・拡大・固定化しつつある。日本の場合は、アメリカ的な「分断」というよりも、社会的な制度設計等が変容する時代に対応しきれないという「ギャップ」「レジリエンス」の問題と云える。

社会学者の正村俊之氏 https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/22/10/22_10_98/pdf は、「格差が拡大（差異化）するだけでは、人々がバラバラになるだけである。バラバラにされた人々が、相対立する二つ（もしくは少数）のグループに集約（同質化）されたときに分断が起こる。しかも、格差が客観的な差異として存在するのに対して、分断は、意見の対立として主観的な次元で現れてくる。」「現代社会では、世代的・地域的・民族的・階層的な格差が人々の序列的な差異を生み出しているのに対して、その差異化された人々を組織化する手段の一つとなっているのがメディアである。」そして「19世紀の時代に社会的な凝集性を高める働きを担ったのは思想やイデオロギーであったが、思想やイデオロギーの力が衰退した今日、それらの代替的な役割を担っているのが、インターネットに代表されるメディアである。」と指摘している。正鵠を射ている。

スマホの普及は、いつでも、どこでも、誰でもタイムラグなしに視聴し、発信することができるネットメディア社会をもたらした。ネットメディアの特徴として、トラッキング機能、フィルタリング機能、パーソナライゼーション機能があり、個人の関心に沿った情報に囲まれ、偏った価値観の中でしか情報／反応しか得られなくなる「フィルターバブル」「エコチェンバー」を生じさせる。フィルターバブルとは「泡の内部のように、外部と遮断された状態・区域・領域、外部で起こっていることに気付いていない、あるいは、外部から影響を受けない状態」、エコチェンバーとは「自分と似た興味関心をもつユーザーをフォローする結果、意見をSNSで発信すると自分と似た意見が返ってくるという状況を反響室に例えたもの」を意味する。これらは、フェイク情報を含め、認知バイアスを生み出し、興味・行動の固定化を招来し、社会的分断を加速させる。

フィルターバブル等に陥ることなく、多様な価値観に基づくバランスのとれた情報に接することが社会的混乱・格差・分断を防ぐ第一歩ではなかろうか。メディアは単なる「情報場」としての機能を超えて、多様な空間・主体・行動をつなぎ、溶融・融合する「社会的サービス場」へと進化している。こうした意味合いを含めて、メディアリテラシーが問われているが、その対応や如何。

2. 寄稿：首楞嚴心經（シューランガマ心經） 柴田芳明（公財）横浜工業会 副理事長

乙巳の変によって成立した中大兄王子と鎌足が主導する新政府は、中大兄王子が篡奪したとの非りを受けるのを避けるため、軽王子を即位させ孝徳大王の下で「改新の詔」を發布した。その主意はそれまでの豪族連合国家の仕組みを改め、土地・人民の私有を廃止し大王中心の中央集権の律令国家を目指していた。しかし、既得権益に固執する豪族たちの抵抗を受け、その政治改革は停滞することになった。

653年、この停滞を打開すべく新政府は唐に第二次遣唐使を派遣した。その一員に学問僧として鎌足の長男の定恵や道昭がいた。

道昭の唐滞在は8年間に及んだ。この間、玄奘三蔵に師事し、法相教学を学んだ。玄奘は印度のナーランダ学院にて学んだ時のことを重ね合わせ、この異国の学僧・道昭を大切にし、玉華宮の同室で一緒に暮らしながら、直接懇切丁寧に印度から持ち帰った梵字（サンスクリット語）の仏教原典の漢訳作業をした。それまで鳩摩羅什たち（異邦人）の漢訳仏典があったが、玄奘は梵字を漢訳するとき中国語に相応しい訳語を新たに選び漢訳し直した。その後、鳩摩羅什たちの漢訳仏典を旧訳といい、玄奘の漢訳仏典を新訳という。

玄奘が死ぬ直前に完成した経典の中核である「大般若経」をとってみると旧訳と新訳の違いが判然とする。旧訳では観音経の趣意を意識して観世音菩薩とされているが、梵字の「アヴァローキテーシュヴラ」は自由自在に見ることができるという意味なので新訳の観自在菩薩の方が正確である。

第四次遣唐使の帰国情報を得た道昭は還暦を迎えた玄奘に帰国の希望を申し出た。そこで、道昭は玄奘に倭国が唐に倣い、豪族連合国家から中央集権の律令国家に平和の裡に移行するために必要な経典について問うた。玄奘は印度から持ち帰った膨大な梵字経典のうち唐が既に中央集権の律令国家を実現している状況に鑑み、漢訳を後回しにしていた梵字の「シューランガマ経」とその要約版の「シューランガマ心経」のことを思い出した。玄奘は道昭が倭国に帰国することを寂しく思っていたが、印度から帰国した時の自らの体験と重ねながら、餞としてこの二つの未漢訳の梵字経典を道昭に渡した。

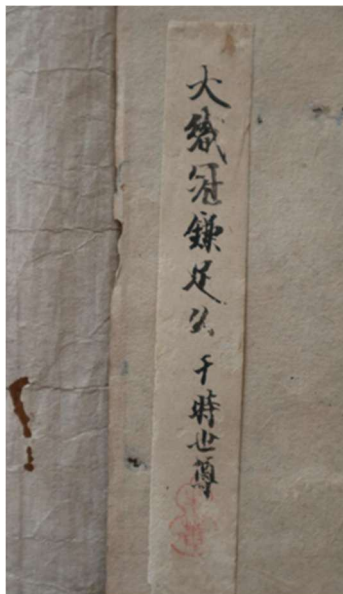
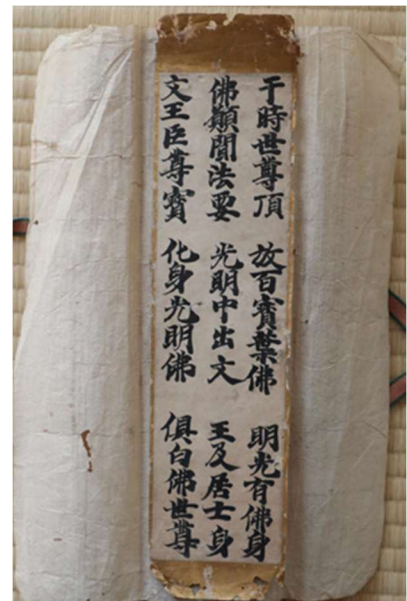
このような経緯によって玄奘が印度から持ち帰った膨大な梵字原典の中のこの二つの経典は世界中で倭国にのみ唯一存在することとなった。このうち「シューランガマ経」については既に鳩摩羅什が「首楞嚴三昧経」として漢訳していたが、この漢訳について玄奘は前述のとおり異論を持っていた。8年間、玄奘の下で大般若経の漢訳を手伝っていた道昭はこの点についてよく理解していた。なお、このような経緯から、中国において伝わる「首楞嚴経（大仏頂経ともいう）」は偽経であることが判明している。

661年、道昭は帰国後、玄奘から託された二つの梵字原典を携えて鎌足の元に行き、鎌足から漢訳作業を急ぐよう指示を受けた。

梵字の「シューランガマ」は首楞嚴と漢訳され、その意味は「一切事究竟堅固」ということである。すべての物事に対して源流を極め絶対に破滅することがないことを意味している。この二つの梵字原典は菩薩たちが大衆に対して布教活動を行う場合の行動指針を示していた。この行動指針が観世音菩薩となるのか観自在菩薩になるのかによって布教のあり様が異なる。観世音菩薩の首楞嚴とすると、悩める世間の一人一人の声に耳を傾けることになるが、これに対して観自在菩薩の首楞嚴とすると、何物にも執着することなくどんな微細な無明でもとことん見抜き無碍自在に観察して法を説き行動することが一切事究竟堅固の究極の菩薩道となる。

このことを玄奘から学んでいた道昭は観自在菩薩の観点で漢訳した。首楞嚴という言葉は為政者が自分勝手な意図をもって動かそうとしても動かすことのできない行動規範である。今日的に言えば国民から信託を受けた為政者が守らなければならない憲法のようなものである。残念であるが現在現存する証拠資料は鳩摩羅什による漢訳經典である「首楞嚴三昧經」と今回紹介する鎌足の写経と伝えられる要約版の「首楞嚴心經卷末大字三行」のみである。

「于時世尊頂 放百寶葉佛 明光有佛身
佛願聞法要 光明中出文 王及居士身
文王臣尊寶 化身光明佛 俱白佛世尊」



この「首楞嚴心經卷末大字三行」の資料は①「大織冠鎌足公 于時世尊 牛庵印」の初代畠山牛庵の極札を持つ。また資料裏面には「吉野鑑の内」と書かれている。②現在我が国において界線の引いてない写経は長屋王の願経以外確認されたものはない。③本写経の紙は古代の特別に用いられた斐麻紙である。

鎌足は道昭から受け取った首楞嚴経と首楞嚴心経のうち首楞嚴心経を自ら写経した經典を「天智天皇から賜った藤原家」の家憲とした。

この家憲を藤原の姓を引き継ぐ次男の不比等に渡した。こうして藤原の姓は不比等の子孫のみに許され、君臣尊寶の精神を引き継ぎ、代々藤原の朝臣を名乗ることになった。また、化身光明の文字から不比等の娘に光明子と名付け、聖武天皇の皇后となった。また、文王臣尊寶の「文」と化身光明佛の「化」の文字から「文化」という言葉が生まれた。こうして我が国の律令国家成立に道昭漢訳のこの二つの仏教經典は大きな役割を果たした。

また、白村江の戦いの敗戦はそれまで停滞していた中央集権の律令国家体制へと一気に舵を切ることになった。この情勢変化に応じて称制していた中大兄王子と鎌足は敗戦国である「倭国」を「日本」に国名変更すると共に、大王の敗戦責任を回避するため大王の名称変更を検討した。当

時、太宗亡き後白村江の戦いを勝利に導いて唐の最高権力者に昇り詰めていた則天武后が中国の歴史上最初で最後の唯一の女性皇帝となり、「天后」と名乗ることに伴い亡き太宗を「天皇」と称していた。称制していた中大兄王子と鎌足は「倭国」を「日本」に国名の変更することともにこの戦勝国である唐の例に倣って「大王」を「天皇」と改名することを決定した。これが我が国における「天皇」の語源となった。

しかし、則天武后亡き後、男性優位国家の中国において「天后」「天皇」という言葉は意図的にかき消され、従来の「皇帝」と「皇后」という名称が復活し、「天皇」という言葉は日本にのみ存在することになった。こうして中大兄王子は律令国家「日本」の初代の「天皇」に就き、天智天皇となった。なお中大兄王子が斉明大王亡きあと称制した理由は新羅・唐との戦争を目前にして万一の敗戦の責任を危惧した鎌足が中大兄王子を守るために進言したことによる。

道昭が漢訳した長文の首楞嚴経は現在失われているが、鳩摩羅什漢訳の首楞嚴三昧経が現存するので観自在菩薩の観点で読み替えることができる。首楞嚴三昧経は仏教を布教する「一切事究竟堅固」な勇気ある菩薩たちが観世音の立場に立って衆生たちの悩み苦しむ一つ一つの声を解決するために行う救済活動情報を収集して具体例として羅列された経典となっているが、首楞嚴経はその羅列された菩薩たちの衆生救済行動のあるべき姿を観自在の立場に立って新たな行動規範を明示する経典となっている。こうして首楞嚴経は現実世界の国家の指導者（為政者）のあるべき姿（行動規範）を提示している。

【補 1】 本稿は、京都大学教養部（文学部哲学科美学美術史教室出身）の上野照夫教授の講義録である。

上野照夫先生は植田寿蔵教授の下で研究生活に入った。その後、国策研究機関・東亜研究所（近衛文麿総裁）が設置され、七帝国大学の若き美学美術史研究者を対象に我が国の文化の世界に誇れる優越性の研究を目的としたテーマを募集した。これに応募した上野照夫先生の研究テーマは次々採用が決まり、莫大な予算を取り付けて毎年1名の文学部哲学科美学美術史教室で新規採用された後輩たちと共同研究した案件100件以上の研究成果報告書を作成し、東亜研究所に提出して当時の著名な先輩学者方による厳しい審査を受けて正式に採用された。

京都大学の先輩である池田勇人さんは戦争中3年間に渡って大蔵省主税局国税課長の職であったが、日本国の財政破綻を目の当たりにして、各省の若手官僚たちを集めて戦後の日本の財政再建プランの勉強会を開いていた。池田課長の実家が広島造り酒屋であったため、酒が十分に振舞われたこともあり、各省の有能な官僚たちが集っていた。

このとき京都大学の先輩の近衛文麿総裁から池田課長を紹介され、その勉強会で話をするように依頼されたので、敗戦が濃厚な状況に対処するためには古代の「白村江の戦い」が日本再建の先例として参考になるとして本稿の研究成果を講演したことがあった。特に戦勝国の文化を取り入れ日本の文化と整合性をとることが肝要であり、これが新しい日本へ改革する機会になること

を強調して講演した。その後もたびたび池田課長から講演の依頼があり東亜研究所に提出し正式に採用された研究成果を次々と講演したとの上野照夫教授の講義であった。

ところが敗戦とともに米軍が上陸した時、東亜研究所の研究について戦争責任を追及される危険を懸念した政府は東亜研究所に集められた研究成果を残らず焼却処分にした。これに伴い文部省は各大学の研究者の手元にある同研究所関連資料をすべて焼却するよう通達を出した。上野教授は提出した研究資料は純粋に文化研究を行ったものであり、戦争責任を追及されるものでないとの信念と、戦争に駆り出された共同研究者たちが戦場から帰還した時に彼らに渡す責任があるとの判断から自宅に持ち帰り封印した。終戦から 23 年経つが誰一人として帰還する者がいなかった。

上野教授はこの年還暦を迎え教養部の教壇で講義する最後の年であったことと、学生たちが 70 年安保改定を目前として浮足だって教養部の授業に熱が入らない雰囲気となっていたことに対して、大学側から学生が興味を持つようなカリキュラム改革をせよとの強い要請を受けた。そこで思い切って自宅に封印していた資料をカリキュラムに組み込んで、「京都大学 1968 年度教養部芸術学 II 日本美術史」の一年間の講義が始まった。

上野教授は OHP でスクリーンに東亜研究所に提出した研究報告書に添付した作品の 100 点以上の写真画像を学生に紹介し、その一点一点について報告内容の骨子を講義した。しかし、残念ながらこれらの作品は戦後行方不明になっていた。上野教授は学生が講義の多岐にわたる内容を記録・記憶するのは困難かもしれないが、100 点以上の写真画像を見せて記憶させることは 20 歳代前後の学生の高い記憶能力からみて容易ではないかと考え、これに力点をおいて講義が続けられた。

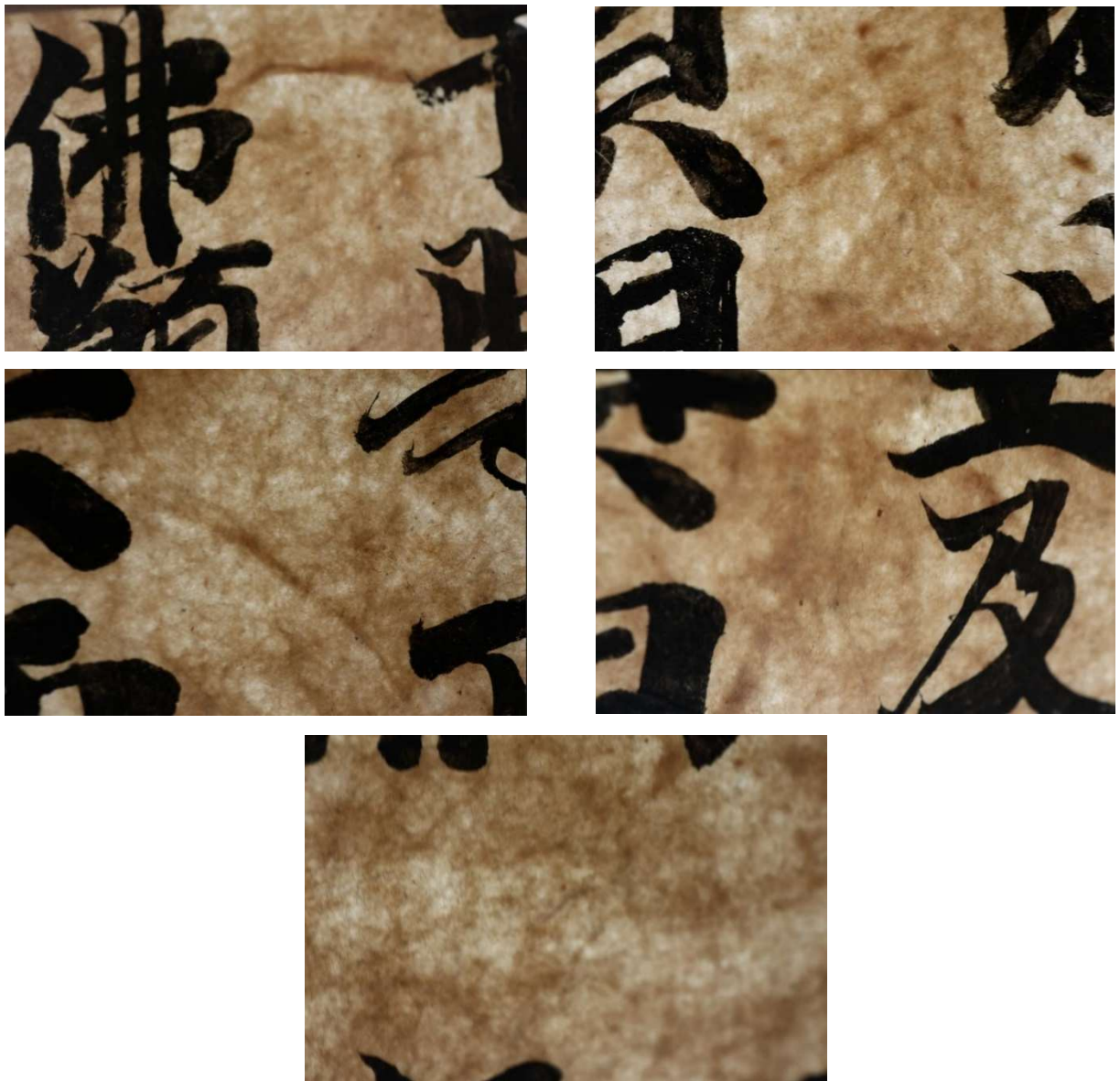
私たちは子供時代の写真をみて忘れていた当時のことを思い出すことがしばしばあるように君たちの脳に写真画像を埋め込むことによって、この講義を受けた学生たちが人生の何処かで紹介作品に出会った時に、忘れていた講義を思い出すように仕組むと話されていた。こうして君たちが出会ったこの行方不明の作品を公開してほしいと遺言に近い講義が行われた。

私も美術品に強い興味をもっていたこともあり、東京美術倶楽部、京都美術倶楽部の業者間交換会の会主たちから、平成になって東京、京都の御屋敷が相続や固定資産税の問題によって細分化され潰された蔵の中から、訳の分からない美術品が大量に持ち込まれて買い手が見つからなくて困っているとの話があった。会主はプロの目で判断して美術品の出し値を言いますが、それに参加者が追いついてこなかった場合に引き取り義務が生じる。

こうして引き取った美術品や、自ら落札した美術品で購入者が見つからない美術品を見せられた中に約 20 年間をかけてほぼ 100 点以上の上野照夫教授の紹介作品が次々に出現した。そしてその美術品見ると上野教授の講義の断片的な記憶が蘇り、それを手掛かりにネットで検索すると詳細な記憶が蘇ってきた。こうした作品の一部は既に各国立博物館に寄贈した。今後も受け入れて頂ければ全作品について寄贈する予定である。

【補 2】 本作品（首楞嚴心經卷末大字三行）の全体の写真画像から紙の表面は斐紙（雁皮）で加工されているが、裏から光源を当て透かして見ると内部は荒い大麻の繊維が確認できる。麻紙（大麻紙）は荒くて筆の運びが悪く滲み易い。これを補完する目的で薄い斐紙（雁皮）で表面を加工し筆の運びを良くして文字の滲みを無くしている。これを斐麻紙というがネットで検索しても出てこない。

麻紙は古代では黄麻紙等の存在が確認されているが斐麻紙は現在確認されているものは他に例がない。当時としても非常に手間がかかって特殊な上層部（鎌足クラス）でないと使用することができない。本作品に用いられた斐麻紙は古代の歴史上極めて貴重な紙である。このことが確認出来る写真画像として参考までに一点を添付した。この点について、上野教授が強調して講義したことを思い出した。なお延喜式の規定には麻紙は麻布 600 グラム相当に対して斐（雁皮）180 グラム相当を混合したものであるとの内容の記載があるが、その製造方法は不明である。



最後に、本作品の解明に文化庁の田山方南氏の愛弟子で文化庁主任文化財調査官、文化財保護審議会専門委員（書蹟部門）の経歴をもたれる財津永次先生に手伝っていただいたことを申し添えます。

3. 解説：実証と導入

わが国において、新しい社会的な仕組みを導入する場合、ほぼすべてに「実証」プロセスが設定される。類似概念もいろいろあるが、最近は、「PoC」が“はやり”である。

- PoC (Proof of Concept 概念実証)：新しい製品やサービスに用いる概念、アイデアや技術などが実現可能かどうか検証するためのもので、一般的には試作品開発に入る前に実施します。
- PoV (Proof of Value 価値実証)：実現可能性が高いことがわかっているものの、その製品やサービスがユーザーにとってどれほどの価値があるのか検証
- PoB (Proof of Business)：費用対効果、損益分岐点など収益性やコスト構造面などを試算し、その製品やサービスがビジネスとして継続可能かどうかを検証
- 実証実験：細かな部分まで作り込んだ製品やサービスをリアルな環境で実際に運用し、実用化に向けて課題を洗い出す工程
- プロトタイプ(Prototype)：技術やアイデアの実現性・方向性をかたちにした試作品のことで、プロトタイプを用いて改善を繰り返し、完成品に近づけていくための工程をプロトタイプピングと呼ぶ
- MVP (Minimum Viable Product 実用最小限の製品)：実用に耐える最小限の機能を持つ製品やサービスを製作し、それを用いてユーザーや市場の反応をテストし、改善を繰り返す

出典：PoC(概念実証)とは？メリットやデメリット、成功のポイントを解説 Sony Acceleration Platform2024. 08. 30 <https://sony-startup-acceleration-program.com/article1241.html>

いずれも、所詮「実証」であり、新たな社会的仕組み/サービスの導入・市場化には至らない。例えば、ITS(Intelligent Transport Systems)関係において、ETCの導入以降、未だ「実証」が続いている。「日本版ライドシェア」「日本版 MaaS (Mobility as a Service)」「完全自動運転(レベル4)」等、本格導入までの道はまだ遠い。失敗が許されない、責任を避けたい「意思決定システム」やリスクに関する科学的合理的な「社会的合意システム」の問題があり、スピードが上がらない。

加えて、未だに PDCA という環境コントロール可能な予定調和的なマネジメントに固執している。環境変化にスピーディに対応する OODA ループとアジャイル的対応に組織マネジメント、プロジェクトマネジメントを移行しない限り、「導入」に至らない「実証」を延々と繰り返すことになる。

野口聡一氏は2022年7月に開催された宇宙ビジネスカンファレンス「SPACETIDE 2022」で「もし失敗があったときに(JAXA や NASA などでは) 報告書を上司に提出するが、SpaceX はその間に改良試験が終わって、次のロケットを打ち上げているくらいのスピード感がある」。事実、日本のH3ロケットは、打ち上げ失敗から次の打ち上げ成功まで1年弱を費やしている。その背景には「変革が速いアジャイルな組織」「考え方がフレキシブル」「ドラスチックな変化をいとわない」という風土の違いがある。イーロン・マスクという希代のイノベーターの存在も大きい。

出典：ロケットを箸でキャッチした SpaceX の凄さの源泉—「他が報告書を書いている間に次を打ち上げる」と野口聡一氏 2024年10月15日 CNET JAPAN <https://japan.cnet.com/article/35224915/>

参考：H3 ロケット 失敗からの再起 技術者たちの348日 初回放送日：2024年4月20日 NHK <https://www.nhk.jp/p/special/ts/2NY2QQLPM3/episode/te/4QZQJ5LWZQ/>

4. 関連情報：「時代環境」「COVID-19」「地方創生」「社会的孤立・孤独」

[時代環境] <https://japa-fellowlink.wixsite.com/current-times>

- ▼〈中国「認知戦」の正体に迫る〉流出文書を追った調査報道、ネット空間はすでに戦時にある
田部康喜 2024年10月12日 Wedge ONLINE <https://wedge.ismedia.jp/articles/-/35393>
- ▼現代のイノベーション思考に不可欠な「スーパーサイクル」という概念融合 2024.10.16 13:15
Forbes JAPAN <https://forbesjapan.com/articles/detail/74138>
- ▼次世代への展望と地域に対する人びとの意識 ～クオリティ・オブ・ソサエティ指標 2024 より～
2024年10月 電通総研 https://www.dentsusoken.com/case_report/research/20241017/2723.html
- ▼今こそ言いたい「日本経済を衰退させた真犯人」選挙で日本経済の未来が議論されない異常事態
野口 悠紀雄 2024/10/27 8:00 東洋経済 ONLINE <https://tinyurl.com/29624ur6>

[COVID-19] <https://japa-fellowlink.wixsite.com/covid-19>

- ▼2024年度の新型コロナワクチン定期接種に関する見解 日本感染症学会・日本呼吸器学会・日本ワクチン学会 2024年10月21日 日本感染症学会 <https://tinyurl.com/2dlorpfm>
- ▼〈情報混乱起きた新型コロナ「レプリコンワクチン」〉非科学的なフェイク情報の原因と影響
唐木英明（東京大学名誉教授）2024年10月22日 Wedge ONLINE <https://tinyurl.com/2ddjndgj>
- ▼新型コロナ 国の「特例貸付」3割余の4684億円が回収不能に 2024年10月23日 NHK
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20241023/k10014616871000.html>
- ▼コロナ死者、年間3万2千人 5類移行後、インフルの15倍 2024/10/24 KYODO
<https://nordot.app/1222153845343044039?c=302675738515047521>

[地方創生] <https://japa-fellowlink.wixsite.com/local-value-creation>

- ▼米不足で露呈した「日本の農政」の異様さ…「日本の米に未来はない」と専門家が断言する、
衝撃の理由 2024.10.11 現代ビジネス <https://gendai.media/articles/-/138970>
- ▼【交付金倍増で地方創生は実現しない】必要な都市の機能分担と連携、本当の意味の活性化とは
青山 侑（明治大学名誉教授）2024年10月16日 Wedge ONLINE <https://tinyurl.com/2cjdrfvv>
- ▼これからの観光振興における二次交通の役割と整備 2024-10-23 KPMG
<https://kpmg.com/jp/ja/home/insights/2024/10/mobility-sightseeing.html>
- ▼西川貴教が語る「滋賀革命」 9.5万人フェス成功の舞台裏と持続可能な地方創生 2024.10.31
11:25 Forbes JAPAN <https://forbesjapan.com/articles/detail/74749>

[社会的孤立・孤独] <https://japa-fellowlink.wixsite.com/social-isolation>

- ▼Facebookの友達500人、リアルでは友達3人…焦る人に伝えたいこと クレア・コーエン
2024.10.13 DIAMOND online <https://diamond.jp/articles/-/350589>
- ▼関係を維持することが大変に「孤独のエピデミックが起きている」が、人々の友人の数は減っていない
2024.10.9 <https://tinyurl.com/2942276m>
- ▼医療にも応用される「物語の癒し効果」 日本独特の物語形態「癒し系」が世界で人気を博すワケ
2024.10.26 COURRIER <https://tinyurl.com/23a57vcg>

5. 読者の声

[読者の声] 里見八犬伝に見る武士道 その2

(作詞・作曲家 高橋育郎)

ところで武士の存在は、それ以前はどうなっていたでしょうか。

古代、大和朝廷に遡りますと、「続日本紀」（しょくにほんき）に「文人武士は国家の重んずるもの」と、ここで武士という言葉が出てきます。ただ武士と言いながら武官の意味が強く、官僚の内部組織に位置づけられたものでした。

平安朝になって、検非違使（警察）の形で新しい軍事力となり、白河上皇のときに置かれた制度として御所の北面の警護に当たったのが「北面の武士」など言われました。中で歌人として名を挙げた西行は抜きんでたエリートでした。しかし、まだ貴族の雇われに過ぎません。さて、平清盛は、ついに検非違使別当という最高の役職に付き、天皇を直接警護しました。

奈良時代の律令である大宝律令は 709 年のこと。その荘園は平安朝の末代になって、718 年に養老律令になると、律令制が崩れてきて私的な荘園が発生し農地の増加を図ろうとするものが現れてきたため、墾田私有化である三世一身法が 723 年に成立し、ここで荘園を守るための軍事力が生まれます。本来、耕作地には国（朝廷）のものとして税がかけられていましたが、貴族や大寺院の所有地には税がかけられず、国司の監査も入らない。そこで権力の真空地帯が出来てきました。橋諸兄（たちばなのもろえ）684～757 光明皇后は異父妹。聖武天皇を補佐し、大仏殿建立を取り仕切った。三世一身法 永年私財法に尽力。

一方、三世一身法は三世代と限度があって、墾田私有者には、せつかく開墾した自分の所有物も期限がくれば国に返さなければならず、積極的に開拓する意欲が減退し、不公平さもあって不満が蔓延して、税収不足が生じてきたため、墾田永年私財法（743 年）を公布しました。このため、有力農民は積極的に荘園をひろげて行きました。そして次第に力をつけていきます。境界線の利水権などもめごとなどは、自前で解決するようになり、警察力、裁判も自分で行使して律令外の存在として武装集団が強固になっていきました。

鎌倉幕府（かまくらどの）の成立で、幕府に所属している御家人（武士）は将軍との関係が、御恩と奉公の形になり、戦地では運命共同体の感覚が濃くなっています。

ところで鎌倉時代は大きな争いが多く、幕府と天皇家の二元性が起因して、承久の乱（1221 年）は後鳥羽上皇が北条義時を追討し、更に二度にわたる元寇があって、ここでは武士の勇ましさは、恩賞を被るといった打算が先だっていました。この時代、軍事力は基本的に領主個人のものとなって、費やした軍事費は自弁であり、支給されるものはなくなり、戦争で軍事費を使っても恩賞はなく、たちまち破綻し没落する。元寇の影響はこの点が目立って噴出しました。そこで、より有力な他の御家人の勢力下へ下ったり、散々な目にあって、不満がつのり倒幕へと向かいました。

そうしたことから建武の中興を経て室町幕府が成立（足利尊氏 1338 第 16 代・義昭 1588 年）。こ

の時代、中央貴族、寺社、武士などの権利義務が重層化、複雑化して自立的村落が発生し、荘園はゆるやかに解体していきます。この間、基本的に武士の行動規範は「御恩があるか」が機軸になり、「御恩がある限りついていく（忠君）勇敢に戦う（勇猛）」といった倫理観を持つようになりました。

だが、応仁の乱以降、これまでの土地を媒介した支配秩序は崩れ、貨幣経済がすすむにつれて、零細領主は没落。大きい領主の支配下に入ります。

こうした淘汰の中、武士の形に変化が出てきます。土地を持たなくても実力ある武士は傭兵となって戦闘に加わり武器を保有し、戦場で手柄を立てて立身出世する。（信長に仕えた藤吉郎・秀吉の例）槍の出現と、兵力の大量投入が図れ、戦場の様子は一変し、軍事人口が激増。そこで武士としての自覚が問われ、倫理として武士道と言われるようになりました。

実力主義が付与されて、家柄以上に個人の武勇が評価されるようになり、主君は新しい武士をとりまとめ、戦って行くうちに情誼の一体感が生まれ、君臣関係が成立。家臣は主君から俸禄や土地を直接貰うことから運命共同体意識が強固になり、君臣は一体化していきます。

[平成 26 年 (2014 年) 2 月 15 日 記]

6. 連携団体及び Japa からのご案内

▼一般社団法人日本レジリエンス協会主催「2024 年 11 月定例会」開催案内

- 開催テーマ：企業のレジリエンスと地域のレジリエンスとの相互依存
～能登半島地震の現状と課題～
- 開催日時：11 月 12 日（火）13:00～16:30
- 開催場所：日比谷図書文化館セミナールーム B & オンライン(Zoom)のハイブリッド方式
- 参加費：会員 無料 一般 2,000 円
- 詳細 <https://resilience-japan.org/mtg20241112/>
- 申込み Peatix <https://rrcj-japan-20241112.peatix.com/>

▼特定 NPO 法人日本 PFI・PPP 協会主催「スマートシティ実証事業の現在地セミナー」開催案内

- タイトル：スマートシティ実証事業の現在地セミナー
- 開催日時：2024 年 11 月 22 日（金）13:30～16:20
- 開催形式：オンライン形式（Zoom）
- 参加費：無料
- 定員：500 名 ※定員になり次第締切させていただきます。
- 詳細及び申込 <https://www.pfikyokai.or.jp/outline/ol-seminar/seminar/241122/>

▼Japa の会員募集

Japa は、会員(個人：正会員・一般会員)と連携団体の方々の参加と協働により活動しています。


Japa は、随時、会員 [正会員、一般会員] を随時募集しています。申込みをお待ちしています。

正会員：入会金 1 万円、年会費 1 万円 一般会員：年会費 3 千円

入会案内の詳細 <https://www.japa.fellowlink.jp/admission>

7. つぶやき（編集後記に代えて）

MLB ワールドシリーズが終わった。左肩の亜脱臼をしながらも、大谷翔平選手はドジャースに移籍した目的（ひりひりしたポストシーズンをおくり、ワールドシリーズに勝つ）を早くも達成した。シーズン当初はトラブルもあり心配されたが1千億円（10年間）の価値があることを証明した。国内の衆議院選挙も終わった。与党が過半数割れし、不安定さが心配されているが、異常であった「1強多弱」から、本来あるべき緊張感のある国政状態を国民が選択した。すべからく、長く続くと「澱」が貯まる。本質的な対話と議論、新陳代謝があってこそ、次代への歩みを高められる。そして、いつしか長く続いた熱い夏日状態もようやく終わり、一気に寒くなってきた。四季のメリハリがなくなり、1年中、これまでとは異なる形での自然災害が発生するリスクが高まっている。個々人の住まい方、暮らし方、生き方を含め、国・地方・コミュニティのあり方に対する社会システムデザインを考え直す時代が来ている。歴史観とビジョンを持って事に臨みたいものである。



専門家個人が専門家として

居場所を得て活躍できる社会づくりをめざして

問合せ・入会申込等連絡先：info@japa.fellowlink.co.jp
編集発行人：Japa日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典
発行元：Japa日本専門家活動協会 <https://japa-fellowlink.wixsite.com/japa>
Copyright © 2024 Japa日本専門家活動協会